



移行期医療（トランジション）

「移行期医療」とは？

小児から成人を対象とする診療科へ移る時期の医療のことを、移行期医療（トランジション）と言います。このステップはお子さんが **健やかに成長し、自立して、生涯にわたる健康を保つ** ために大切なステップです。そのためには、成長・発育の段階に応じた医療を受けることが重要です。

小児科の医師は成長発育する過程である小児期の医療の専門家ですが、成人特有の癌や生活習慣病など加齢に伴う疾患の専門家ではありません。そのため、**原則 22 歳までの青年期に「小児科」から「成人診療科」への転科（転院）が望ましい** と考えております。

移行期に感じる「戸惑い」について

「小児科」では意思決定の大部分を保護者が担いますが、「成人診療科」では患者さん本人が治療に関する意思決定をすることが基本になります。この大きな変化に、患者さんだけでなく、保護者の方や医療者も戸惑いを感じる場合があります。

また、青年期は就学・就労・結婚等といった生活環境の変化が重なる時期です。この時期に、お子さんが自身の病気・治療への理解が十分でないまま突然保護者の手を離れてしまうと、治療の中断や、学校生活・職場での困難を生じたりすることがあります。

スムーズな移行のために

こうした問題を防ぐため、私たちは **12 歳～14 歳頃から事前に準備を始めること**をお勧めしています。移行の時期や方法については、お子さんご本人と・保護者の方と一緒に相談しながら進めていきます。それぞれの患者さんに合った支援を行い、安心して次のステップに進めるようサポートしてまいります。

